

学校コード F113310103625

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 専門職大学の設置

注1

認可

注2

東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人敬心学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局

職名・氏名

シムキョクチョウ コスギ タイスケ
事務局長・小杉 泰輔

電話番号

03-6272-5671

(夜間)

e-mail

t.kosugi@tpu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

リハビリテーション学部

＜作業療法学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	34

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人敬心学園

(2) 大学名

東京保健医療専門職大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒135-0043
東京都江東区塩浜2-22-10

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(コバヤシ ミットシ) 小林 光俊 (1986年4月)		
学長	(スヤマ テツオ) 陶山 哲夫 (2020年4月)		
学部長	(サトウ アキラ) 佐藤 章 (2020年4月)		
学科長等	(サトウ アキラ) 佐藤 章 (2020年4月)	(コンノ トモコ) 近野 智子 (2022年4月)	規程に定める学科長の任期(2年)満了に伴うため。2022年4月1日(4)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
リハビリテーション学部 作業療法学科 作業療法学士 (専門職)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	年次 0人	320人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	80 (-) [-]	人 () []	80 (-) [-]	人 () []	80 (-) [-]	人 () []	0.56倍		
志願者数	() []	() []	() []	() []	27 (-) [-]	() []	113 (-) [-]	() []	74 (-) [-]	() []			
受験者数	() []	() []	() []	() []	23 (-) [-]	() []	108 (-) [-]	() []	70 (-) [-]	() []			
合格者数	() []	() []	() []	() []	23 (-) [-]	() []	73 (-) [-]	() []	60 (-) [-]	() []			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	19 (-) [-]	() []	60 (-) [-]	() []	55 (-) [-]	() []			
入学定員超過率 B/A					0.24		0.75		0.69				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	19 [-] (-)	- [-] (-)	61 [-] (1)	- [-] (-)	57 [-] (2)	- [-] (-)	
2 年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	15 [-] (-)	- [-] (-)	59 [-] (1)	- [-] (-)	
3 年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	13 [-] (-)	- [-] (-)	
4 年次	/		/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	19 [-] (-)		76 [-] (1)		129 [-] (3)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	19人	4人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	4人	0人	就学意欲の低下(1人)、学力不足(1人)、家庭の事情(1人)、他の教育機関への入学(1人)
令和3年度	76人	2人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	他の教育機関への入学(1人)
			令和3年度	1人	0人	除籍(1人)
令和4年度	129人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		6人		6人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{19} = \boxed{21.05} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{76} = \boxed{2.63} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{129} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 作業療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
①基礎科目	敬心における共生論	1前	1								兼1
	心理学	1前	2			1					
	社会学	1前	2								兼1
	実務英会話【※】	1後	1								兼1
	社会学	2前	2			1					
	経営学	1前	1			1					
	音楽文化論	1前・後	2				1				
	法学	1前・後	2								兼1
国際関係論	1前・後	1								兼1	
組織	職業倫理	1前	1								兼1
	チームワーク概論	1後	1				2				
	リーダーシップ論	1前	1			1					
	社会人基礎力	1前・後	1								兼1
	コミュニケーション論	1前・2前	2			1					
	国際協力論	2前・後	2								兼1
地域・ボランティア	スポーツボランティア I	1前・後	2								兼1
	スポーツボランティア II【※】	2前・後	1								兼1
	地域ボランティア論	1前・後	2			1					
	地域防災	1前・後	2								兼1
科学	建築・まちづくり	1前	2								兼1
	統計学序論	1前	2								兼1
	統計学	1後	2								兼1
	生物学	1前	2								兼1
	物理学	1後	2								兼1
	情報リテラシー	1前・後	1								兼1
	ICT概論	2前	1								兼1
	健康科学	1前・後	2								兼1
	食と健康【※】	1前・後	1								兼1
	化学	1前・後	2								兼1
小計(29科目)	—	16	30	0	3	4	1	0	0	兼18	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
①基礎科目	敬心における共生論	1前	1			1					
	心理学	1前	2				1				
	社会学	1前	2								兼1
	実務英会話【※】	1後	1								兼1
	社会学	2前	2			1					
	経営学	1前	1			1					
	音楽文化論	1前・後	2				1				
	法学	1前・後	2								兼1
国際関係論	1前・後	1								兼1	
組織	職業倫理	1前	1								兼1
	チームワーク概論	1後	1				2				
	リーダーシップ論	1前	1			1					
	社会人基礎力	1前・後	1								兼1
	コミュニケーション論	1前・2前	2			1					
	国際協力論	2前・後	2								兼1
地域・ボランティア	スポーツボランティア I	1前・後	2								兼1
	スポーツボランティア II【※】	2前・後	1								兼1
	地域ボランティア論	1前・後	2			1					
	地域防災	1前・後	2								兼1
科学	建築・まちづくり	1前	2								兼1
	統計学序論	1前	2								兼1
	統計学	1後	2								兼1
	生物学	1前	2								兼1
	物理学	1後	2								兼1
	情報リテラシー	1前・後	1								兼1
	ICT概論	2前	1								兼1
	健康科学	1前・後	2								兼1
	食と健康【※】	1前・後	1								兼1
	化学	1前・後	2								兼1
小計(29科目)	—	16	30	0	4	4	1	0	0	兼18	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			1					
		解剖学Ⅱ	1後	1			1					
		解剖学実習【※】	1後	1			1					
		機能解剖学	2前	1			1					
		生理学Ⅰ	1前	1								兼1
		生理学Ⅱ	1後	1								兼1
		生理学実習【※】	2前	1								兼1
		運動学Ⅰ	1後	1				2				
		運動学Ⅱ	2前	1				2				
		運動学実習【※】	2後	1						3		
	運動生理学	2後	1				1					
	人間発達学	1後	1				1					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1								兼1
		臨床心理学	1後	2				1				
		精神医学	2後	2								兼1
		整形外科学	2前	2								兼1
		神経内科学	2後	2			1					
		小児科学	3前	2								兼1
		内科学	2前	2								兼1
老年医学		3前	2								兼1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	救急救命の基礎【※】	2後	1								兼1	
	薬理学	3前	1			1						
	栄養学	1後	1								兼1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	3前	1								兼1	
	リハビリテーション概論	1後	1								兼1	
	公衆衛生学	3後	1								兼1	
	地域福祉論	1後	1			1						
	地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			1		1				
	地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1			1		1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			1					
		解剖学Ⅱ	1後	1			1					
		解剖学実習【※】	1後	1			1					
		機能解剖学	2前	1			1					
		生理学Ⅰ	1前	1								兼1
		生理学Ⅱ	1後	1								兼1
		生理学実習【※】	2前	1								兼1
		運動学Ⅰ	1後	1				1				
		運動学Ⅱ	2前	1				2				
		運動学実習【※】	2後	1						3		共同
	運動生理学	2後	1				1					
	人間発達学	1後	1				1					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1								兼1
		臨床心理学	1後	2				1				
		精神医学	2後	2								兼1
		整形外科学	2前	2								兼1
		神経内科学	2前	2					1			
		小児科学	3前	2								兼1
		内科学	2前	2								兼1
老年医学		3前	2								兼1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	救急救命の基礎【※】	2後	1								兼1	
	薬理学	3前	1			1						
	栄養学	1後	1								兼1	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	3前	1								兼1	
	リハビリテーション概論	1前	1								兼1	
	公衆衛生学	3後	1								兼1	
	地域福祉論	1後	1			1						
	地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			1		1				
	地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1			1		1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1		1						
		作業療法各論	2前	1		1						
		基礎作業学演習Ⅰ	1前	1			1					2
		基礎作業学演習Ⅱ	1後	1				1			1	1
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前	1		1						
		作業療法管理学Ⅱ	4後	1			1				1	
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1		1						
		身体機能作業療法評価学	2前	1		1						
		精神機能作業療法評価学	2前	1		1						
		発達障害作業療法評価学	2前	1		1						
		高齢期作業療法評価学	2前	1		1						
		高次脳機能作業療法評価学	2後	1			1				1	
		日常生活活動作業療法評価学	2後	1					1			
	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3後	1					1			1
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3後	1			1					1
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1			1				1	
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ【※】	3後	1			1					2
		精神機能作業療法治療学	3前	1			1					
		精神機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1	1				1
		発達障害作業療法治療学	3前	1			1					
		発達障害作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					1
		高齢期作業療法治療学	3前	1				1				1
		高齢期作業療法治療学実習【※】	3後	1				1				1
		高次脳機能作業療法治療学	3前	1			1				1	
		高次脳機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1				1	
日常生活活動作業療法治療学		3前	1				1				1	
日常生活活動作業療法治療学実習【※】		3後	1				1				1	
日常生活活動支援治療学	3前	1			1				1			
日常生活活動支援治療学実習【※】	3後	1			1				1			
健康寿命の延伸	3後	1			1	1	2				兼1	
在宅医療・介護の推進	3後	1			1	3					兼1	
生活行為を支援するための環境整備	3後		1			1					兼1	
緩和ケアと作業療法	3後		1								兼1	
地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1			1						
	就労支援論	3後	1			1						
	生活環境学	3後	1			1						
	地域作業療法学実習【※】	4後	1			1			5			
	障害児教育と作業療法	3前		1							兼1	
発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法	3前		1							兼1		
臨床実習	体験実習Ⅰ【臨】	1前	1			3	5	3	5			
	体験実習Ⅱ【臨】	1前	1			3	5	3	5			
	評価実習Ⅰ【臨】	2後	3			5	5	3	5			
	評価実習Ⅱ【臨】	2後	2			5	5	3	5			
	総合実習Ⅰ【臨】	4前	9			5	5	3	5			
	総合実習Ⅱ【臨】	4前	9			5	5	3	5			
	地域実習【臨】	4後	2			3	5	3	5			
小計(77科目)	—	101	4	0	8	7	3	5	0		兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1		1						
		作業療法各論	2前	1		1						
		基礎作業学演習Ⅰ	1前	1							2	
		基礎作業学演習Ⅱ	1後	1						1	1	
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前	1			1					
		作業療法管理学Ⅱ	4後	1						1		
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1			1					
		身体機能作業療法評価学	2後	1			1					
		精神機能作業療法評価学	2前	1			1					
		発達障害作業療法評価学	2前	1			1					
		高齢期作業療法評価学	2前	1			1					
		高次脳機能作業療法評価学	2後	1						1		
		日常生活活動作業療法評価学	2後	1							1	
	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	3前	1				1				
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3後	1								1
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1				1				
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3後	1								1
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1					1			
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ【※】	3後	1								2
		精神機能作業療法治療学	3前	1				1				
		精神機能作業療法治療学実習【※】	3後	1				1				1
		発達障害作業療法治療学	3前	1				1				
		発達障害作業療法治療学実習【※】	3後	1				1				1
		高齢期作業療法治療学	3前	1					1			1
		高齢期作業療法治療学実習【※】	3後	1					1			1
		高次脳機能作業療法治療学	3前	1				1			1	
		高次脳機能作業療法治療学実習【※】	3後	1				1			1	
日常生活活動作業療法治療学		3前	1					1			1	
日常生活活動作業療法治療学実習【※】		3後	1					1			1	
日常生活活動支援治療学	3前	1				1						
日常生活活動支援治療学実習【※】	3後	1				1				1		
健康寿命の延伸	3後	1				1	1	2			兼1	
在宅医療・介護の推進	3後	1				1	2	1			兼1	
生活行為を支援するための環境整備	3後		1								兼1	
緩和ケアと作業療法	3後		1								兼1	
地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1				1					
	就労支援論	3後	1				1					
	生活環境学	3後	1				1					
	地域作業療法学実習【※】	4後	1							4		
	障害児教育と作業療法	3前		1							兼1	
発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法	3前		1							兼1		
臨床実習	体験実習Ⅰ【臨】	1前	1			3	4	3	4			
	体験実習Ⅱ【臨】	1前	1			3	4	3	4			
	評価実習Ⅰ【臨】	2後	3			5	4	3	4			
	評価実習Ⅱ【臨】	2後	2			5	4	3	4			
	総合実習Ⅰ【臨】	4前	9			5	4	3	4			
	総合実習Ⅱ【臨】	4前	9			5	4	3	4			
	地域実習【臨】	4後	2			3	4	3	4			
小計(77科目)	—	101	4	0	8	6	3	4	0		兼14	

科目区分	授業科目の名称	配当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	統合分野 共生社会の展開と実践	3後	1			5	4					兼3	
	小計 (1科目)	—	1	0	0	5	4	0	0	0		兼5	
	隣接他分野	共生福祉論	1後	2			1						
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後	2			1						
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前	1			1						
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2									兼1
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1									兼1
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2				1					
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1				1					
		身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後	2									兼1
		身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前	1									兼1
		手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	2後	2									兼1
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ【※】	3前	1									兼1	
	小計 (11科目)	—	5	12	0	2	0	1	0	0		兼3	
組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2									兼1	
	組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			1							
	実践マーケティング戦略	2前	2			1							
	保健医療経営Ⅰ	2後	2									兼1	
	保健医療経営Ⅱ	3前	1									兼1	
	実務リーダーのための財務会計Ⅰ	1後	1									兼1	
	実務リーダーのための財務会計Ⅱ	2前	1									兼1	
	ビジネスのための法律	2前	1									兼1	
	ビジネスのためのIT	2前	1									兼1	
	在宅サービスの事業経営	2後	1									兼1	
事業計画策定概論	3後	2									兼1		
総合事業開発【※】	4後	1									兼1		
小計 (12科目)	—	8	9	0	2	0	0	0	0		兼8		
小計 (24科目)	—	14	21	0	5	4	1	0	0		兼13		
④ 総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1			2	5	3					
	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1			2	5	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1			2	5	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1			2	5	3					
	小計 (4科目)		4	0	0	2	5	3	0	0	0		
合計 (134科目)	—	135	55	0	11	7	4	5	0		兼42		
卒業要件及び履修方法													
1. 基礎科目：必修16単位 選択4単位以上 2. 職業専門科目：必修101単位 3. 展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接他分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ」、「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 4. 総合科目：必修4単位 5. 実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から27単位以上 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位 (履修科目の登録の上限：48単位(年間))													

科目区分	授業科目の名称	配当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	統合分野 共生社会の展開と実践	3後	1			6	4					兼5	
	小計 (1科目)	—	1	0	0	5	4	0	0	0		兼5	
	隣接他分野	共生福祉論	1後	2			1						
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後	2			1						
		ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前	1			1						
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2									兼1
		美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1									兼1
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2				1					
		音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1				1					
		身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後	2									兼1
		身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前	1									兼1
		手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	2後	2									兼1
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ【※】	3前	1									兼1	
	小計 (11科目)	—	5	12	0	2	0	1	0	0		兼3	
組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2									兼1	
	組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			1							
	実践マーケティング戦略	2前	2			1							
	保健医療経営Ⅰ	2後	2									兼1	
	保健医療経営Ⅱ	3前	1									兼1	
	実務リーダーのための財務会計Ⅰ	1後	1									兼1	
	実務リーダーのための財務会計Ⅱ	2前	1									兼1	
	ビジネスのための法律	2前	1									兼1	
	ビジネスのためのIT	2前	1									兼1	
	在宅サービスの事業経営	2後	1									兼1	
事業計画策定概論	3後	2									兼1		
総合事業開発【※】	4後	1									兼1		
小計 (12科目)	—	8	9	0	2	0	0	0	0		兼8		
小計 (24科目)	—	14	21	0	5	4	1	0	0		兼14		
④ 総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1			2	4	3					
	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1			2	4	3					
	小計 (4科目)		4	0	0	2	4	3	0	0	0		
合計 (134科目)	—	135	55	0	12	6	4	4	0		兼42		
卒業要件及び履修方法													
1. 基礎科目：必修16単位 選択4単位以上 2. 職業専門科目：必修101単位 3. 展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接他分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ」、「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 4. 総合科目：必修4単位 5. 実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から27単位以上 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位 (履修科目の登録の上限：48単位(年間))													

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
①基礎科目	社会	敬心における共生論	1前	1							兼1
		心理学	1前	2			1				
		社会学	1前	2							兼1
		実務英会話【※】	1後	1							兼1
		観光学	2前	2		1					
		経営学	1前	1		1					
		音楽文化論	1前・後	2				1			
		法学（未開講）	1前・後	2							兼1
		国際関係論（未開講）	1前・後	1							兼1
		組織	職業倫理	1前	1						
		チームワーク概論	1後	1			2				
		リーダーシップ論	1前	1		1					
		社会人基礎力（未開講）	1前・後	1							兼1
		コミュニケーション論	1前・2前	2		1					
		国際協力論（未開講）	2前・後	2							兼1
	地域・ボランティア	スポーツボランティアI	1前・後	2							兼1
		スポーツボランティアII【※】	2前・後	1							兼1
		地域ボランティア論（未開講）	1前・後	2		1					
		地域防災	1前・後	2							兼1
	科学	建築・まちづくり	1前	2							兼1
		統計学序論	1前	2							兼1
		統計学	1後	2							兼1
		生物学	1前	2							兼1
		物理学	1後	2							兼1
		情報リテラシー	1前・後	1							兼1
		ICT概論	2前	1							兼1
		健康科学（未開講）	1前・後	2							兼1
		食と健康【※】（未開講）	1前・後	1							兼1
		化学	1前・後	2							兼1
	小計（29科目）	—	16	30	0	3	4	1	0	0	兼18

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
①基礎科目	社会	敬心における共生論	1前	1							兼1
		心理学	1前	2			1				
		社会学	1前	2							兼1
		実務英会話【※】	1後	1							兼1
		観光学	2前	2		1					
		経営学	1前	1		1					
		音楽文化論（未開講）	1前	2				1			
		法学（未開講）	1前	2							兼1
		国際関係論（未開講）	1前	1							兼1
		組織	職業倫理	1後	1						
		チームワーク概論	1後	1			2				
		リーダーシップ論	1前	1		1					
		社会人基礎力（未開講）	1後	1							兼1
		コミュニケーション論	1後・2前	2		1					
		国際協力論	2前・後	2							兼1
	地域・ボランティア	スポーツボランティアI（未開講）	1後	2							兼1
		スポーツボランティアII【※】	2前・後	1							兼1
		地域ボランティア論（未開講）	1後	2		1					
		地域防災	1後	2							兼1
	科学	建築・まちづくり	1後	2							兼1
		統計学序論	1前	2							兼1
		統計学	1後	2							兼1
		生物学	1前	2							兼1
		物理学	1後	2							兼1
		情報リテラシー（未開講）	1後	1							兼1
		ICT概論	2前	1							兼1
		健康科学（未開講）	1後	2							兼1
		食と健康【※】（未開講）	1後	1							兼1
		化学（未開講）	1前	2							兼1
	小計（29科目）	—	16	30	0	3	4	1	0	0	兼18

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
② 職業専門科目 人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習【※】	1後	1			1						
	機能解剖学	2前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習【※】	2前	1								兼1	
	運動学Ⅰ	1後	1				1					
	運動学Ⅱ	2前	1				2					
	運動学実習【※】	2後	1						3		共同	
	運動生理学	2後	1			1						
	人間発達学	1後	1			1						
	② 職業専門科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1								兼1
臨床心理学		1後	2				1					
精神医学		2後	2								兼1	
整形外科学		2前	2								兼1	
神経内科学		2後	2			1						
小児科学		3前	2								兼1	
内科学		2前	2								兼1	
老年医学		3前	2								兼1	
救急救命の基礎【※】		2後	1								兼1	
薬理学		3前	1			1						
栄養学	1後	1								兼1		
② 職業専門科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	3前	1								兼1	
	リハビリテーション概論	1後	1								兼1	
	公衆衛生学	3後	1								兼1	
	地域福祉論	1後	1			1						
	地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			1		1				
	地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1			1		1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
② 職業専門科目 人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習【※】	1後	1			1						
	機能解剖学	2前	1			1						
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習【※】	2前	1								兼1	
	運動学Ⅰ	1後	1					2				
	運動学Ⅱ	2前	1					2				
	運動学実習【※】	2後	1							3		
	運動生理学	2後	1			1						
	人間発達学	1前	1			1						
	② 職業専門科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	2前	1								兼1
臨床心理学		1後	2				1					
精神医学		2後	2								兼1	
整形外科学		2前	2								兼1	
神経内科学		2後	2			1						
小児科学		3前	2								兼1	
内科学		2前	2								兼1	
老年医学		3前	2								兼1	
救急救命の基礎【※】		2後	1								兼1	
薬理学		3前	1			1						
栄養学	1後	1								兼1		
② 職業専門科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	3前	1								兼1	
	リハビリテーション概論	1後	1								兼1	
	公衆衛生学	3後	1								兼1	
	地域福祉論	1後	1			1		1				
	地域共生のための連携活動Ⅰ	3後	2			1		1				
	地域共生のための連携活動Ⅱ	4後	1			1		1			兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	基礎作業法学	作業療法学概論	1前	1			1					
		作業療法学各論	2前	1			1					
		基礎作業学演習Ⅰ	1前	1					2			
		基礎作業学演習Ⅱ	1後	1				1		1		
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前	1			1					
		作業療法管理学Ⅱ	4後	1			1					
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1			1					
		身体機能作業療法評価学	2前	1			1					
		精神機能作業療法評価学	2前	1			1					
		発達障害作業療法評価学	2前	1			1					
		高齢期作業療法評価学	2前	1			1					
		高次脳機能作業療法評価学	2後	1				1				
		日常生活活動作業療法評価学	2後	1					1			
	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3後	1					1			
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3後	1			1					
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ【※】	3後	1			1					
		精神機能作業療法治療学	3前	1			1					
		精神機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1	1				
		発達障害作業療法治療学	3前	1			1					
		発達障害作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
		高齢期作業療法治療学	3前	1			1					
		高齢期作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
		高次脳機能作業療法治療学	3前	1			1					
		高次脳機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
日常生活活動作業療法治療学		3前	1			1						
日常生活活動作業療法治療学実習【※】		3後	1			1						
日常生活活動支援治療学	3前	1			1							
日常生活活動支援治療学実習【※】	3後	1			1							
健康寿命の延伸	3後	1			1	1	2			兼1		
在宅医療・介護の推進	3後	1			1	3						
生活行為を支援するための環境整備	3後	1		1								
緩和ケアと作業療法	3後	1								兼1		
地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1			1						
	就労支援論	3後	1			1						
	生活環境学	3後	1			1						
	地域作業療法学実習【※】	4後	1			1		5				
	障害児教育と作業療法	3前	1								兼1	
発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法	3前	1								兼1		
臨床実習	体験実習Ⅰ【臨】	1前	1			3	4	3	4			
	体験実習Ⅱ【臨】	1前	1			3	4	3	4			
	評価実習Ⅰ【臨】	2後	3			5	4	3	4			
	評価実習Ⅱ【臨】	2後	2			5	4	3	4			
	総合実習Ⅰ【臨】	4前	9			5	4	3	4			
	総合実習Ⅱ【臨】	4前	9			5	4	3	4			
	地域実習【臨】	4後	2			3	4	3	4			
小計(77科目)	—	101	4	0	8	6	3	4	0	兼14		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
②職業専門科目	基礎作業法学	作業療法学概論	1前	1			1					
		作業療法学各論	2前	1			1					
		基礎作業学演習Ⅰ	1前	1					1			
		基礎作業学演習Ⅱ	1後	1						1		
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	1前	1			1					
		作業療法管理学Ⅱ	4後	1			1					
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	1後	1			1					
		身体機能作業療法評価学	2前	1			1					
		精神機能作業療法評価学	2前	1			1					
		発達障害作業療法評価学	2前	1			1					
		高齢期作業療法評価学	2前	1			1					
		高次脳機能作業療法評価学	2後	1				1				
		日常生活活動作業療法評価学	2後	1					1			
	作業療法治療学	身体機能作業療法治療学Ⅰ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅰ【※】	3後	1					1			
		身体機能作業療法治療学Ⅱ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅱ【※】	3後	1			1			1		
		身体機能作業療法治療学Ⅲ	3前	1			1					
		身体機能作業療法治療学実習Ⅲ【※】	3後	1			1			1		
		精神機能作業療法治療学	3前	1			1					
		精神機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1	1				
		発達障害作業療法治療学	3前	1			1					
		発達障害作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
		高齢期作業療法治療学	3前	1			1					
		高齢期作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
		高次脳機能作業療法治療学	3前	1			1					
		高次脳機能作業療法治療学実習【※】	3後	1			1					
日常生活活動作業療法治療学		3前	1			1						
日常生活活動作業療法治療学実習【※】		3後	1			1						
日常生活活動支援治療学	3前	1			1							
日常生活活動支援治療学実習【※】	3後	1			1							
健康寿命の延伸	3後	1			1	1	2			兼1		
在宅医療・介護の推進	3後	1			1	3						
生活行為を支援するための環境整備	3後	1			1							
緩和ケアと作業療法	3後	1								兼1		
地域作業療法学	地域作業療法学	3前	1			1						
	就労支援論	3後	1			1						
	生活環境学	3後	1			1						
	地域作業療法学実習【※】	4後	1			1		5				
	障害児教育と作業療法	3前	1								兼1	
発達・精神障害に対する社会生活力と作業療法	3前	1								兼1		
臨床実習	体験実習Ⅰ【臨】	1前	1			3	4	3	5			
	体験実習Ⅱ【臨】	1前	1			3	4	3	5			
	評価実習Ⅰ【臨】	2後	3			5	4	3	5			
	評価実習Ⅱ【臨】	2後	2			5	4	3	5			
	総合実習Ⅰ【臨】	4前	9			5	4	3	5			
	総合実習Ⅱ【臨】	4前	9			5	4	3	5			
	地域実習【臨】	4後	2			3	4	3	5			
小計(77科目)	—	101	4	0	8	6	3	5	0	兼14		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	統合分野 共生社会の展開と実践	3後	1			5	4					兼3	
	小計 (1科目)	—	1	0	0	5	4	0	0	0	0	兼5	
隣接分野	共生福祉論	1後	2			1							
	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後	2			1							
	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前	1			1							
	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2									兼1	
	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1									兼1	
	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2					1					
	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1					1					
	身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後	2									兼1	
	身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前	1									兼1	
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	2後	2									兼1	
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ【※】	3前	1									兼1	
	小計 (11科目)	—	5	12	0	2	0	1	0	0	0	兼3	
	組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2									兼1
		組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			1						
実践マーケティング戦略		2前	2			1							
保健医療経営Ⅰ		2後	2									兼1	
保健医療経営Ⅱ		3前	1									兼1	
実務リーダーのための財務会計Ⅰ		1後	1									兼1	
実務リーダーのための財務会計Ⅱ		2前	1									兼1	
ビジネスのための法律		2前	1									兼1	
ビジネスのためのIT		2前	1									兼1	
在宅サービスの事業経営		2後	1									兼1	
事業計画策定概論		3後	2									兼1	
総合事業開発【※】	4後	1									兼1		
小計 (12科目)	—	8	9	0	2	0	0	0	0	0	兼8		
小計 (24科目)	—	14	21	0	5	4	1	0	0	0	兼13		
④ 総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1			2	4	3					
	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1			2	4	3					
	小計 (4科目)		4	0	0	2	4	3	0	0	0	0	
合計 (134科目)	—	135	55	0	12	6	4	4	0	0	兼42		
卒業要件及び履修方法													
1.基礎科目：必修16単位 選択4単位以上 2.職業専門科目：必修101単位 3.展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ」、「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 4.総合科目：必修4単位 5.実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から27単位以上 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位（履修科目の登録の上限：48単位（年間））													

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
③ 展開科目	統合分野 共生社会の展開と実践	3後	1			5	4					兼3	
	小計 (1科目)	—	1	0	0	5	4	0	0	0	0	兼5	
隣接分野	共生福祉論	1後	2			1							
	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅰ	2後	2			1							
	ユニバーサルツーリズムと外出支援Ⅱ	3前	1			1							
	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2									兼1	
	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1									兼1	
	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ	2後	2					1					
	音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ【※】	3前	1					1					
	身体障害への支援システム工学Ⅰ	2後	2									兼1	
	身体障害への支援システム工学Ⅱ	3前	1									兼1	
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ	2後	2									兼1	
	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ【※】	3前	1									兼1	
	小計 (11科目)	—	5	12	0	2	0	1	0	0	0	兼3	
	組織の経営・マネジメント	実務リーダーのための経営戦略論	1後	2									兼1
		組織・人材マネジメントの理論と実践	1後	2			1						
実践マーケティング戦略		2前	2			1							
保健医療経営Ⅰ		2後	2									兼1	
保健医療経営Ⅱ		3前	1									兼1	
実務リーダーのための財務会計Ⅰ		1後	1									兼1	
実務リーダーのための財務会計Ⅱ		2前	1									兼1	
ビジネスのための法律		2前	1									兼1	
ビジネスのためのIT		2前	1									兼1	
在宅サービスの事業経営		2後	1									兼1	
事業計画策定概論		3後	2									兼1	
総合事業開発【※】	4後	1									兼1		
小計 (12科目)	—	8	9	0	2	0	0	0	0	0	兼8		
小計 (24科目)	—	14	21	0	5	4	1	0	0	0	兼13		
④ 総合科目	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	3前	1			2	4	3					
	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	3後	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅠ	4前	1			2	4	3					
	作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	4後	1			2	4	3					
	小計 (4科目)		4	0	0	2	4	3	0	0	0	0	
合計 (134科目)	—	135	55	0	11	6	4	5	0	0	兼42		
卒業要件及び履修方法													
1.基礎科目：必修16単位 選択4単位以上 2.職業専門科目：必修101単位 3.展開科目：必修14単位、選択6単位以上 隣接分野の選択科目のうち「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ」、「美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位または「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ」、「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ」の2科目3単位のいずれかを必ず履修し、3単位を修得すること。 4.総合科目：必修4単位 5.実験・実習科目から40単位以上 うち、臨地実務実習から27単位以上 以上、基礎科目20単位、職業専門科目101単位、展開科目20単位、総合科目4単位、合計145単位（履修科目の登録の上限：48単位（年間））													

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言をうけ、オンライン授業へ移行したが、対面授業により授業を行うことが望ましい以下の授業の配当年次を変更した。

- ・「職業倫理」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・「コミュニケーション論」の配当年次を「1前・2前」から「1後・2前」に変更。
- ・「建築・まちづくり」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・「人間発達学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・「基礎作業学演習Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。

【令和3年度】

科目担当者人数の変更を行った。

- ・「基礎作業学演習Ⅰ」の科目担当者の配置を「准教授1名」から「助教2名」に変更。
- ・「基礎作業学演習Ⅱ」の科目担当者の配置を「講師1名」から「講師1名」及び「助教1名」に変更。

新規科目担当者の配置を行った。

- ・「高次脳機能作業療法評価学」の科目担当者に「准教授1名」を配置。

科目担当者人数の変更を行った。

- ・「体験実習Ⅰ」【臨】及び「体験実習Ⅱ」【臨】の科目担当者のうち、助教の担当者5名を4名に変更（人数記載の誤り）。
- ・「評価実習Ⅰ」【臨】及び「評価実習Ⅱ」【臨】の科目担当者のうち、助教の担当者5名を4名に変更（人数記載の誤り）。
- ・「総合実習Ⅰ」【臨】及び「総合実習Ⅱ」【臨】の科目担当者のうち、助教の担当者5名を4名に変更（人数記載の誤り）。
- ・「地域実習」【臨】の科目担当者のうち、助教の担当者5名を4名に変更（人数記載の誤り）。

科目担当者未定科目に新規科目担当者の配置を行った。

- ・「スポーツボランティアⅡ」の科目担当者に兼任教員1名を配置。
- ・「整形外科学」の科目担当者に兼任教員1名を配置。

科目担当者の辞退に伴い、科目担当者の変更を行った。

- ・「在宅サービスの事業経営」の科目担当者変更（兼任）を行った。

【令和4年度】

科目配置学期の変更を行った。

- ・「神経内科学」の配当学期を「2後」から「2前」に変更。
- ・「リハビリテーション概論」の配当学期を「1後」から「1前」に変更。
- ・「身体機能作業療法評価学」の配当学期を「2前」から「2後」に変更。

専任教員等の配置変更を行った。

- ・「敬心における共生論」の科目担当者を「兼任講師」から「教授」に変更。
- ・「身体機能作業療法治療学Ⅰ」の科目担当者を「准教授」から「教授」に変更。
- ・「身体機能作業療法治療学実習Ⅱ」の科目担当者を「准教授」から「助教」に変更。
- ・「身体機能作業療法治療学Ⅲ」の科目担当者を「教授」から「准教授」に変更。
- ・科目担当予定者（准教授）の就任辞退に伴い、担当者未定であった「身体機能作業療法治療学実習Ⅲ」の科目担当者に「助教」2名を配置。
- ・科目担当予定者（准教授）の就任辞退に伴い、担当者未定であった「在宅医療・介護の推進」の科目担当者に「講師」を配置（教授1名、准教授2名、講師1名で当該科目を担当）。
- ・科目担当予定者（准教授及び助教）の就任辞退に伴い、担当者未定であった「地域作業療法実習」の科目担当者を「准教授1名及び助教5名」から「助教」4名に変更。
- ・「発達障害作業療法治療学実習」の科目担当者を「教授1名」から「教授1名」及び「助教1名」に変更。
- ・「共生社会の展開と実践」の科目担当者を「教授5名、准教授4名、兼任3名」から「教授6名、准教授4名、兼任5名」に変更。

兼任講師の変更を行った。

- ・「救急救命の基礎」の科目担当者を兼任講師に変更。

新規兼任講師の配置を行った。

- ・担当者未定であった「生活行為を支援するための環境整備」の科目担当者に兼任講師を配置。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
95 科目	39 科目	0 科目	134 科目	95 科目 []	39 科目 []	0 科目 []	134 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{134} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考	
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積6,757.50㎡ 借用期間5年(自動更新)	
	校舎敷地	6,757.50㎡	0.00㎡	0.00㎡	6,757.50㎡		
	運動場用地	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		
	小 計	6,757.50㎡	0.00㎡	0.00㎡	6,757.50㎡		
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡		
	合 計	6,757.50㎡	0.00㎡	0.00㎡	6,757.50㎡		
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	13057.71㎡	0.00㎡	0.00㎡	13,057.71㎡			
	(— ㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)	(— ㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
	16室	8室	13室	1室 (補助職員0人)	—		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			学部全体	
	リハビリテーション学部		55 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点
		リハビリテーション学部	21,327[325] (19,327[325])	50[1] (50[1])	3[1] (3[1])	650 (650)	3,248 (3,248)
	計	21,327[325] (19,327[325])	50[1] (50[1])	3[1] (3[1])	650 (650)	3,248 (3,248)	21 (21)
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		
	473.00㎡		130席		50,000冊		
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
	0.00㎡		運動室141.54㎡				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	250千円	250千円	図書購入費	29,600千円	3,600千円
	共 同 研 究 費 等	2,000千円	2,000千円	設備購入費	208,579千円	0千円	0千円
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,900千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	千円	千円
	学生納付金以外の維持方法の概要						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東京保健医療専門職大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
リハビリテーション学部	4	160	0	640		0.73	0.85	-	令和2	-	
理学療法学科	4	80	0	320	学士 (理学療法 学(専門 職))	0.90	1.01	-	令和2	東京都江東区塩浜2-22-10	
作業療法学科	4	80	0	320	学士 (作業療法 学(専門 職))	0.56	0.69	-	令和2	同上	
大学全体	-	160	0	640	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実専	講師	平野 夏子 (53) <令和2年4月> 音楽学士	音楽文化論 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ	実専	講師	平野 夏子 (54) <令和2年4月> 音楽学士	音楽文化論 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ	実専	講師	平野 夏子 (55) <令和2年4月> 音楽学士	音楽文化論 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ 音楽療法によるQOLの維持向上Ⅱ
実専	講師	秋元 美穂 (47) <令和2年4月> 人間科学修士	基礎作業学演習Ⅱ 高齢期作業療法治療学 高齢期作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	実専	講師	秋元 美穂 (48) <令和2年4月> 人間科学修士	基礎作業学演習Ⅱ 高齢期作業療法治療学 高齢期作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	実専	講師	秋元 美穂 (49) <令和2年4月> 人間科学修士	基礎作業学演習Ⅱ 高齢期作業療法治療学 高齢期作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ
実専	講師	井口 佳晴 (49) <令和2年4月> 保健医療学修士	日常生活活動作業療法評価学 日常生活活動作業療法治療学 日常生活活動作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	実専	講師	井口 佳晴 (49) <令和2年4月> 保健医療学修士	日常生活活動作業療法評価学 日常生活活動作業療法治療学 日常生活活動作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ	実専	講師	井口 佳晴 (51) <令和2年4月> 保健医療学修士	日常生活活動作業療法評価学 日常生活活動作業療法治療学 日常生活活動作業療法治療学実習 健康寿命の延伸※ 在宅医療・介護の推進※ 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習 作業療法研究基礎ゼミナールⅠ 作業療法研究基礎ゼミナールⅡ 作業療法研究卒業ゼミナールⅠ 作業療法研究卒業ゼミナールⅡ
実専	助教	井川 大樹 (34) <令和2年4月> 学士(作業療法学)	運動学実習 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	井川 大樹 (34) <令和2年4月> 学士(作業療法学)	運動学実習 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	井川 大樹 (35) <令和2年4月> 学士(作業療法学)	運動学実習 基礎作業学演習Ⅰ 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習
実専	助教	畠山 久司 (32) <令和2年4月> 作業療法学士	運動学実習 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	畠山 久司 (32) <令和2年4月> 作業療法学士	運動学実習 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	畠山 久司 (33) <令和2年4月> 作業療法学士	運動学実習 基礎作業学演習Ⅰ 地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習
実専	助教	河邊 宗知 (47) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	河邊 宗知 (47) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	河邊 宗知 (48) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習
実専	助教	河邊 宗知 (47) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	河邊 宗知 (47) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習	実専	助教	河邊 宗知 (49) <令和3年4月> 修士(リハビリテーション)	地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
実(研)	准教授	小野寺 哲夫 (49) <令和2年4月> 博士(文学)	実(研)	准教授	小野寺 哲夫 (49) <令和2年4月> 博士(文学)	実(研)	准教授	小野寺 哲夫 (50) <令和2年4月> 博士(文学)	実(研)	准教授	小野寺 哲夫 (51) <令和2年4月> 博士(文学)
		心理学 臨床心理学 健康寿命の延伸※ 共生社会の展開と実践			心理学 臨床心理学 健康寿命の延伸※ 共生社会の展開と実践			心理学 臨床心理学 健康寿命の延伸※ 共生社会の展開と実践			心理学 臨床心理学 健康寿命の延伸※ 共生社会の展開と実践
実(研)	助教	佐藤 淳矢 (43) <令和2年4月> 修士(リハビリテーション学)	実(研)	助教	佐藤 淳矢 (44) <令和2年4月> 修士(リハビリテーション学)	実(研)	助教	佐藤 淳矢 (45) <令和2年4月> 修士(リハビリテーション学)	実(研)	助教	佐藤 淳矢 (46) <令和2年4月> 修士(リハビリテーション学)
		運動学実習 身体機能作業療法治療学実習Ⅰ			運動学実習 身体機能作業療法治療学実習Ⅰ			運動学実習 基礎作業学演習Ⅱ 身体機能作業療法治療学実習Ⅰ			運動学実習 基礎作業学演習Ⅱ 身体機能作業療法治療学実習Ⅰ 身体機能作業療法治療学実習Ⅲ
		地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習			地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習			地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習			地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習
実(研)	助教	高畑 幸弘 (33) <令和2年4月> 作業療法士									
		地域作業療法実習 体験実習Ⅰ 体験実習Ⅱ 評価実習Ⅰ 評価実習Ⅱ 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 地域実習									
実(研)	教授	宮田 雅之 (53) <令和2年4月> 経営学修士	実(研)	教授	宮田 雅之 (54) <令和2年4月> 経営学修士	実(研)	教授	宮田 雅之 (55) <令和2年4月> 経営学修士	実(研)	教授	宮田 雅之 (56) <令和2年4月> 経営学修士
		経営学 共生社会の展開と実践 実践マーケティング戦略			経営学 共生社会の展開と実践 実践マーケティング戦略			経営学 共生社会の展開と実践 実践マーケティング戦略			経営学 共生社会の展開と実践 実践マーケティング戦略
兼任	講師	陶山 哲夫 (76) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	陶山 哲夫 (76) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	陶山 哲夫 (77) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	陶山 哲夫 (78) <令和2年4月> 医学博士
		敬心における共生論 スポーツボランティアⅡ 救急救命の基礎 リハビリテーション医学			敬心における共生論 スポーツボランティアⅡ 救急救命の基礎 リハビリテーション医学			敬心における共生論 救急救命の基礎 リハビリテーション医学 整形外科			リハビリテーション医学 整形外科
兼任	講師	照井 直人 (72) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	照井 直人 (72) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	照井 直人 (73) <令和2年4月> 理学博士	兼任	講師	照井 直人 (74) <令和2年4月> 理学博士
		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習
兼任	講師	五十嵐 広明 (68) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	五十嵐 広明 (69) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	五十嵐 広明 (70) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	五十嵐 広明 (71) <令和2年4月> 医学博士
		生物学			生物学			生物学			生物学
兼任	講師	佐久間 肇 (64) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	佐久間 肇 (65) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	佐久間 肇 (66) <令和3年4月> 医学博士	兼任	講師	佐久間 肇 (67) <令和3年4月> 医学博士
		内科学 公衆衛生学 健康寿命の延伸※			内科学 公衆衛生学 健康寿命の延伸※			内科学 公衆衛生学 健康寿命の延伸※			内科学 救急救命の基礎 公衆衛生学 健康寿命の延伸※
兼任	講師	鳥居 昭久 (56) <令和2年4月> 児童学修士	兼任	講師	鳥居 昭久 (56) <令和2年4月> 児童学修士	兼任	講師	鳥居 昭久 (57) <令和2年4月> 児童学修士	兼任	講師	鳥居 昭久 (58) <令和2年4月> 児童学修士
		健康科学 リハビリテーション概論 共生社会の展開と実践			健康科学 リハビリテーション概論 共生社会の展開と実践			健康科学 リハビリテーション概論 共生社会の展開と実践			健康科学 リハビリテーション概論 共生社会の展開と実践
兼任	講師	杉山 真理 (47) <令和2年4月> 保健衛生学士	兼任	講師	杉山 真理 (48) <令和2年4月> 保健衛生学士	兼任	講師	杉山 真理 (49) <令和2年4月> 保健衛生学士	兼任	講師	杉山 真理 (50) <令和2年4月> 保健衛生学士
		スポーツボランティアⅠ			スポーツボランティアⅠ			スポーツボランティアⅠ スポーツボランティアⅡ			スポーツボランティアⅡ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	有園 暢子 (54) <令和2年4月> 文学士	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ 手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	兼任	講師	有園 暢子 (55) <令和2年4月> 文学士	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ 手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	兼任	講師	有園 暢子 (56) <令和2年4月> 文学士	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ 手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ	兼任	講師	有園 暢子 (57) <令和2年4月> 文学士	手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅠ 手話による聴覚障害者とのコミュニケーションⅡ
兼任	講師	江幡 真史 (64) <令和2年4月> 修士(経営学)	実務リーダーのための経営戦略論	兼任	講師	江幡 真史 (64) <令和2年4月> 修士(経営学)	実務リーダーのための経営戦略論	兼任	講師	江幡 真史 (65) <令和2年4月> 修士(経営学)	実務リーダーのための経営戦略論	兼任	講師	江幡 真史 (66) <令和2年4月> 修士(経営学)	実務リーダーのための経営戦略論 共生社会の展開と実践
兼任	講師	西澤 達夫 (65) <令和3年4月> 高等専門学校卒	ICT概論 共生社会の展開と実践 身体障害への支援システム工学Ⅰ 身体障害への支援システム工学Ⅱ	兼任	講師	西澤 達夫 (65) <令和3年4月> 高等専門学校卒	ICT概論 共生社会の展開と実践 身体障害への支援システム工学Ⅰ 身体障害への支援システム工学Ⅱ	兼任	講師	西澤 達夫 (66) <令和3年4月> 高等専門学校卒	ICT概論 共生社会の展開と実践 身体障害への支援システム工学Ⅰ 身体障害への支援システム工学Ⅱ	兼任	講師	西澤 達夫 (67) <令和3年4月> 高等専門学校卒	ICT概論 共生社会の展開と実践 身体障害への支援システム工学Ⅰ 身体障害への支援システム工学Ⅱ
兼任	講師	五嶋 裕子 (46) <令和2年4月> 保健医学修士	統計学序論 統計学	兼任	講師	五嶋 裕子 (46) <令和2年4月> 保健医学修士	統計学序論 統計学	兼任	講師	五嶋 裕子 (47) <令和2年4月> 保健医学修士	統計学序論 統計学	兼任	講師	五嶋 裕子 (48) <令和2年4月> 保健医学修士	統計学序論 統計学
兼任	講師	中村 泰規 (52) <令和4年4月> 保健衛生学修士	地域共生のための連携活動Ⅱ	兼任	講師	中村 泰規 (52) <令和4年4月> 保健衛生学修士	地域共生のための連携活動Ⅱ	兼任	講師	中村 泰規 (53) <令和4年4月> 保健衛生学修士	地域共生のための連携活動Ⅱ	兼任	講師	中村 泰規 (54) <令和4年4月> 保健衛生学修士	地域共生のための連携活動Ⅱ
兼任	講師	宮地 恵美子 (57) <令和4年4月> 工学修士	共生社会の展開と実践	兼任	講師	宮地 恵美子 (57) <令和4年4月> 工学修士	共生社会の展開と実践	兼任	講師	安田 和弘 (44) <令和3年4月> 博士(学術)	共生社会の展開と実践 共生社会の展開と実践	兼任	講師	安田 和弘 (45) <令和3年4月> 博士(学術)	共生社会の展開と実践
兼任	講師	東根(望月)明人 (61) <令和2年4月> 博士(医学)	職業倫理	兼任	講師	東根(望月)明人 (61) <令和2年4月> 博士(医学)	職業倫理	兼任	講師	東根(望月)明人 (62) <令和2年4月> 博士(医学)	職業倫理	兼任	講師	東根(望月)明人 (63) <令和2年4月> 博士(医学)	職業倫理
兼任	特任教授	小林 照子 (84) <令和3年4月> 高等学校卒	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ 美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ	兼任	特任教授	小林 照子 (85) <令和3年4月> 高等学校卒	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ 美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ	兼任	特任教授	小林 照子 (86) <令和3年4月> 高等学校卒	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ 美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ	兼任	特任教授	小林 照子 (87) <令和3年4月> 高等学校卒	美容ケアによるQOLの維持向上Ⅰ 美容ケアによるQOLの維持向上Ⅱ
兼任	特任教授	上野 悦子 (68) <令和3年4月> 開発学修士	国際協力論	兼任	特任教授	上野 悦子 (68) <令和3年4月> 開発学修士	国際協力論	兼任	特任教授	上野 悦子 (69) <令和3年4月> 開発学修士	国際協力論	兼任	特任教授	上野 悦子 (70) <令和3年4月> 開発学修士	国際協力論
兼任	特任教授	松村 真吾 (64) <令和3年4月> 経営学修士	保健医療経営Ⅰ	兼任	特任教授	松村 真吾 (65) <令和3年4月> 経営学修士	保健医療経営Ⅰ	兼任	特任教授	松村 真吾 (66) <令和3年4月> 経営学修士	保健医療経営Ⅰ	兼任	特任教授	松村 真吾 (67) <令和3年4月> 経営学修士	保健医療経営Ⅰ
兼任	特任教授	塩田 英治 (55) <令和3年4月> 法学士	ビジネスのための法律	兼任	特任教授	塩田 英治 (55) <令和3年4月> 法学士	ビジネスのための法律	兼任	特任教授	塩田 英治 (56) <令和3年4月> 法学士	ビジネスのための法律	兼任	特任教授	塩田 英治 (57) <令和3年4月> 法学士	ビジネスのための法律
兼任	特任教授	佐々 毅 (54) <令和3年4月> 博士(医学)	精神医学	兼任	特任教授	佐々 毅 (54) <令和3年4月> 博士(医学)	精神医学	兼任	特任教授	佐々 毅 (55) <令和3年4月> 博士(医学)	精神医学	兼任	特任教授	佐々 毅 (56) <令和3年4月> 博士(医学)	精神医学
兼任	特任教授	宮脇 啓透 (47) <令和3年4月> 修士(工学)	ビジネスのためのIT	兼任	特任教授	宮脇 啓透 (47) <令和3年4月> 修士(工学)	ビジネスのためのIT	兼任	特任教授	宮脇 啓透 (48) <令和3年4月> 修士(工学)	ビジネスのためのIT	兼任	特任教授	宮脇 啓透 (49) <令和3年4月> 修士(工学)	ビジネスのためのIT
兼任	特任教授	池田 栄治 (58) <令和4年4月> 経営学修士	事業計画策定概論 総合事業開発	兼任	特任教授	池田 栄治 (58) <令和4年4月> 経営学修士	事業計画策定概論 総合事業開発	兼任	特任教授	池田 栄治 (59) <令和4年4月> 経営学修士	事業計画策定概論 総合事業開発	兼任	特任教授	池田 栄治 (60) <令和4年4月> 経営学修士	事業計画策定概論 総合事業開発

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	特任教授	田中 智恵子 (55) <令和4年4月> 保健学修士	保健医療経営Ⅱ	兼任	特任教授	田中 智恵子 (56) <令和4年4月> 保健学修士	保健医療経営Ⅱ	兼任	特任教授	田中 智恵子 (57) <令和4年4月> 保健学修士	保健医療経営Ⅱ
兼任	講師	伊藤 弥生 (62) <令和2年4月> 修士(文学)	実務英会話	兼任	講師	伊藤 弥生 (63) <令和2年4月> 修士(文学)	実務英会話	兼任	講師	伊藤 弥生 (64) <令和2年4月> 修士(文学)	実務英会話
兼任	講師	澤田 千秋 (61) <令和2年4月> 修士(学術)	地域防災	兼任	講師	澤田 千秋 (61) <令和2年4月> 修士(学術)	地域防災	兼任	講師	澤田 千秋 (63) <令和2年4月> 修士(学術)	地域防災
兼任	講師	原田 佳明 (61) <令和2年4月> 学士	実務リーダーのための財務会計Ⅰ 実務リーダーのための財務会計Ⅱ	兼任	講師	原田 佳明 (61) <令和2年4月> 学士	実務リーダーのための財務会計Ⅰ 実務リーダーのための財務会計Ⅱ	兼任	講師	原田 佳明 (63) <令和2年4月> 学士	実務リーダーのための財務会計Ⅰ 実務リーダーのための財務会計Ⅱ
兼任	講師	松崎 茂 (49) <令和2年4月> 修士(社会学)	社会学	兼任	講師	松崎 茂 (49) <令和2年4月> 修士(社会学)	社会学	兼任	講師	松崎 茂 (50) <令和2年4月> 修士(社会学)	社会学
兼任	講師	藤原 記代子 (56) <令和2年4月> 修士(家政学)	食と健康	兼任	講師	藤原 記代子 (56) <令和2年4月> 修士(家政学)	食と健康	兼任	講師	藤原 記代子 (58) <令和2年4月> 修士(家政学)	食と健康
兼任	講師	前田 智 (56) <令和2年4月> 経済学士	社会人基礎力	兼任	講師	前田 智 (57) <令和2年4月> 経済学士	社会人基礎力	兼任	講師	前田 智 (59) <令和2年4月> 経済学士	社会人基礎力
兼任	講師	大和 淳司 (55) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシー	兼任	講師	大和 淳司 (55) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシー	兼任	講師	大和 淳司 (57) <令和2年4月> 博士(工学)	情報リテラシー
兼任	講師	山田 守彦 (47) <令和2年4月> 法務博士(専門職)	法学	兼任	講師	山田 守彦 (47) <令和2年4月> 法務博士(専門職)	法学	兼任	講師	山田 守彦 (49) <令和2年4月> 法務博士(専門職)	法学
兼任	講師	上島 順子 (40) <令和2年4月> 修士(栄養学)	栄養学	兼任	講師	上島 順子 (40) <令和2年4月> 修士(栄養学)	栄養学	兼任	講師	上島 順子 (42) <令和2年4月> 修士(栄養学)	栄養学
兼任	講師	深谷 慎介 (34) <令和2年4月> 修士(理学)	化学	兼任	講師	浦野 直人 (66) <令和2年4月> 工学博士	化学	兼任	講師	浦野 直人 (68) <令和2年4月> 工学博士	化学
兼任	講師	都築 暢之 (84) <令和3年4月> 医学博士	整形外科学	兼任	講師	都築 暢之 (85) <令和3年4月> 医学博士	整形外科学	兼任	講師		
兼任	講師	酒井 秀一 (51) <令和3年4月> 学士	在宅サービスの事業経営	兼任	講師	酒井 秀一 (51) <令和3年4月> 学士	在宅サービスの事業経営	兼任	講師		
兼任	講師	村瀬 大作 (46) <令和2年4月> 修士(計画建築学)	建築・まちづくり	兼任	講師	村瀬 大作 (47) <令和2年4月> 修士(計画建築学)	建築・まちづくり	兼任	講師		
兼任	講師			兼任	講師	大川 晃 (62) <令和3年4月> 修士(スポーツ科学)	在宅サービスの事業経営	兼任	講師		
兼任	講師			兼任	講師	津田 篤志 (41) <令和4年4月> 専門学校卒	在宅サービスの事業経営	兼任	講師		
兼任	講師			兼任	講師	村瀬 大作 (49) <令和2年4月> 修士(計画建築学)	建築・まちづくり	兼任	講師		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	Alimire Naiseding (41) <令和3年4月> 医学博士	病理学
兼任	講師	二瓶 隆一 (86) <令和3年4月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	白瀬 美弘 (66) <令和4年4月> 学士(教育)	障害児教育と作業療法
兼任	講師	藤本 幹雄 (50) <令和4年4月> 医学博士	老年医学
兼任	講師	吉澤 いづみ (47) <令和4年4月> 専門学校卒	緩和ケアと作業療法
兼任	講師	白木原 葉子 (60) <令和4年4月> 準学士	発達・精神障害に対する社会生活と作業療法
兼任	講師	鈴木 忠幸 (53) <令和2年4月> 博士(理学)	物理学
兼任	講師	杉山 文彦 (62) <令和2年4月> 社会学士	国際関係論
兼任	講師	Alimire Naiseding (41) <令和3年4月> 医学博士	病理学
兼任	講師	二瓶 隆一 (86) <令和3年4月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	白瀬 美弘 (66) <令和4年4月> 学士(教育)	障害児教育と作業療法
兼任	講師	藤本 幹雄 (50) <令和4年4月> 医学博士	老年医学
兼任	講師	吉澤 いづみ (47) <令和4年4月> 専門学校卒	緩和ケアと作業療法
兼任	講師	白木原 葉子 (60) <令和4年4月> 準学士	発達・精神障害に対する社会生活と作業療法
兼任	講師	鈴木 忠幸 (53) <令和2年4月> 博士(理学)	物理学
兼任	講師	杉山 文彦 (62) <令和2年4月> 社会学士	国際関係論
兼任	講師	Alimire Naiseding (42) <令和3年4月> 医学博士	病理学
兼任	講師	二瓶 隆一 (87) <令和3年4月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	白瀬 美弘 (67) <令和4年4月> 学士(教育)	障害児教育と作業療法
兼任	講師	藤本 幹雄 (51) <令和4年4月> 医学博士	老年医学
兼任	講師	吉澤 いづみ (49) <令和4年4月> 専門学校卒	緩和ケアと作業療法
兼任	講師	白木原 葉子 (61) <令和4年4月> 準学士	発達・精神障害に対する社会生活と作業療法
兼任	講師	鈴木 忠幸 (54) <令和2年4月> 博士(理学)	物理学
兼任	講師	杉山 文彦 (63) <令和2年4月> 社会学士	国際関係論
兼任	講師	村井 達哉 (67) <令和4年4月> 医学博士	病理学
兼任	講師	江藤 隆範 (59) <令和4年4月> 医学博士	小児科学
兼任	講師	白瀬 美弘 (68) <令和4年4月> 学士(教育)	障害児教育と作業療法
兼任	講師	藤本 幹雄 (52) <令和4年4月> 医学博士	老年医学
兼任	講師	吉澤 いづみ (50) <令和4年4月> 専門学校卒	緩和ケアと作業療法
兼任	講師	白木原 葉子 (62) <令和4年4月> 準学士	発達・精神障害に対する社会生活と作業療法
兼任	講師	鈴木 忠幸 (55) <令和2年4月> 博士(理学)	物理学
兼任	講師	杉山 文彦 (64) <令和2年4月> 社会学士	国際関係論
兼任	講師	田中 克一 (48) <令和4年4月> 学士(経営学)	生活行為を支援するための環境整備

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**届出時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼担の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・小林毅准教授就任辞退。後任未定であるが、2021年度から就任予定の代替教員を採用予定
- ・高島幸弘助教就任辞退。
- ・担当予定科目は複数教員が共同で担当する科目であり、当該教員の他、教授3人、准教授5人、講師3人、助教4人が担当予定のため、授業運営に支障無く、採用予定なし

【令和3年度】

- 専任教員の担当科目追加を行った。
- ・坂本俊夫准教授の担当科目に「高次脳機能作業療法評価学」を追加。
 - ・佐藤淳矢助教の担当科目に「基礎作業学演習Ⅱ」を追加（令和2年11月AC教員審査済み）。
 - ・陶山哲夫教授（兼担）の担当科目に「整形外科学」を追加。
 - ・杉山真理講師（兼担）の担当科目に「スポーツボランティアⅡ」を追加。
- 科目担当の変更を行った。
- ・「運動学Ⅰ」の科目担当者を近野智子准教授から坂本俊夫准教授に変更。
 - ・「基礎作業学演習Ⅰ」の科目担当者を近野智子准教授から井川大樹助教（令和2年11月AC教員審査済み）及び島山久司助教（令和2年11月AC教員審査済み）に変更。
 - ・科目担当者の担当辞退に伴い、「在宅サービスの事業経営」の科目担当者を大川兼任講師に変更。
- 次年度から新任専任教員の配置を行う。
- ・熊本圭吾教授が令和4年に就任予定。令和3年5月AC教員審査申請

【令和4年度】

- 学科長の変更を行った。
- ・学科長選任規程に定める学科長の任期2年の満了に伴い、近野智子副学科長が令和4年4月1日より作業療法学科学科長に就任した。
- 新任専任教員の配置を行った。
- ・熊本圭吾教授が令和4年に就任。令和3年7月AC教員審査済み。（担当科目）「地域共生のための連携活動Ⅰ」「共生社会の展開と実践」
 - ・熊本圭吾教授の就任に伴い、「地域共生のための連携活動Ⅰ」の科目担当者を柳澤孝主教授から熊本圭吾教授に変更。
- 専任教員の配置等の変更を行った。
- ・「敬心における共生論」の科目担当者を陶山哲也教授（兼務）から柳澤孝主教授（令和3年11月AC教員審査済み）に変更。
 - ・「身体機能作業療法治療学Ⅰ」の科目担当者を坂本俊夫准教授から星克司教授（令和3年5月AC教員審査済み）に変更。
 - ・「身体機能作業療法治療学Ⅲ」の科目担当者を佐藤章教授から坂本俊夫准教授（令和3年5月AC教員審査済み）に変更。
 - ・「身体機能作業療法治療学実習Ⅱ」の科目担当者を坂本俊夫准教授から井川大樹助教（令和3年5月AC教員審査済み）に変更。
 - ・「身体機能作業療法治療学実習Ⅲ」の科目担当者を坂本俊夫准教授から井川大樹助教（令和3年5月AC教員審査済み）及び佐藤淳矢助教（令和3年5月AC教員審査済み）に変更。
- 専任教員の担当科目の追加を行った。
- ・専任教員の就任辞退（准教授）に伴い、担当予定科目であった「在宅医療・介護の推進※」を井口佳晴講師（令和3年5月AC教員審査済み）が担当。
 - ・島山久司講師の担当科目に「発達障害作業療法治療学実習」（令和3年5月AC教員審査済み）を追加。
- 専任教員及び兼任講師、兼任講師の科目担当の変更を行った。
- ・専任教員の就任辞退（准教授）に伴い、担当者未定であった「生活行為を支援するための環境整備」の科目担当者に田中克一兼任講師を配置。
 - ・科目担当者の担当辞退により、「病理学」の科目担当者に村井達哉兼任講師を配置。
 - ・科目担当者の担当辞退により、「小児科学」の科目担当者に江添隆範兼任講師を配置。
 - ・科目担当者の担当辞退により、「在宅サービスの事業経営」の科目担当者に津田篤志兼任講師を配置。
 - ・「救急救命の基礎」の科目担当者を陶山哲夫兼任講師から佐久間肇兼任講師に変更。
 - ・「共生社会の展開と実践」の科目担当者に江幡真史兼任講師を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
13	7	6	3
名	名	名	名

(注) ・ 専門職大学設置基準、専門職短期大学設置基準により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
11	7	4	5	27	0	12	6	4	4	26	0
(8)	(7)	(4)	(5)	(23)	(0)						
専任教員数(実専)	専任教員数(実実)	専任教員数(実研)	みなし専任教員数			専任教員数(実専)	専任教員数(実実)	専任教員数(実研)	みなし専任教員数		
8	10	9	1			8	10	8	1		
(7)	(8)	(8)	(1)								
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
12	6	4	4	26	0	12	6	4	4	26	0
[1]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[Δ1]	[0]
専任教員数(実専)	専任教員数(実実)	専任教員数(実研)	みなし専任教員数			専任教員数(実専)	専任教員数(実実)	専任教員数(実研)	みなし専任教員数		
8	10	8	1			8	10	8	1		
[0]	[1]	[Δ2]	[0]			[0]	[1]	[Δ2]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数。 届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。 (記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。 (記入例: 1名減の場合: Δ1)
 ・ 「実専」は実務家教員、「実実」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	6	7
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{26}{27} = \boxed{96.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{6}{26} = \boxed{23.07} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
								必修	選択
1	准教授	小林 毅	R2.3	必修	基礎作業学演習Ⅰ	①	・2020年4月より准教授就任予定（教員審査済）であったが、本人都合により就任辞退		
				必修	高次脳機能作業療法評価学	①			
				必修	身体機能作業療法治療学実習Ⅲ	①			
				必修	在宅医療・介護の推進	①			
				選択	生活行為を支えるための環境整備	②			
				必修	地域作業療法実習	①			
				必修	体験実習Ⅰ	①			
				必修	体験実習Ⅱ	①			
				必修	評価実習Ⅰ	①			
				必修	評価実習Ⅱ	①			
				必修	総合実習Ⅰ	①			
				必修	総合実習Ⅱ	①			
				必修	地域実習	①			
				必修	作業療法研究基礎ゼミナールⅠ	①			
				必修	作業療法研究基礎ゼミナールⅡ	①			
				2	助教	高畑 幸弘		R元.12	必修
必修	体験実習Ⅰ	①							
必修	体験実習Ⅱ	①							
必修	評価実習Ⅰ	①							
必修	評価実習Ⅱ	①							
必修	総合実習Ⅰ	①							
必修	総合実習Ⅱ	①							
必修	地域実習	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	24 科目	必修	24 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	0 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	25 科目	計	24 科目	計	1 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
								必修	選択
		該当なし							
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由**で辞任した**全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)						
2	人	必修	24	科目	必修	24	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	25	科目	計	24	科目	計	1	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{27} = \boxed{7.4} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由							
		該当なし											
合計			後任補充状況の集計										
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)					
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退した教員の令和2年度に担当する科目は、既に科目認定を受けている専任教員が担当する。必修科目については当該科目の教員審査済みの教員が担当し、選択科目については同分野の教育機関に専任教員として勤務する教員が兼任教員として担当するため、学生に対して教育上の不利益になることはない。
 また、開学前の就任辞退のため、学生に対して周知をする必要はない。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	遵守事項	履行状況	今後の実施計画
認可時 (令和元年)	<p>・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	遵守事項	<p>・設置の趣旨・目的を確実に履行するため、教職員への設置の趣旨・目的の周知・理解を進める活動を継続的に実施する。具体的には、教職員にはFD・SD委員会で「教育理念と展開科目の位置付けの理解」の研修を企画し実施した。オープンキャンパス等では志願者に丁寧に説明した。</p> <p>・FD・SD活動の計画策定・実施は、研究倫理研修会を企画し、実施した。</p> <p>・遠隔授業と対面授業を併用しているが、教員への支援を行い、リアルタイムの遠隔授業を実施することで、教育水準の向上に努めた。</p>	履行済
認可時 (令和元年)	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	遵守事項	<p>・後任の教員の採用方針に基づき、原則として定年まで4年以上の期間がある者とし、助教には若年者を採用するよう配慮し、完成年度前に体制を整備した。具体的には、退職者の後任は、内部昇格を基本とし、その補充は、可能な限り下位の職位（講師、助教）として若返りを図るため、内部昇格の体制職位審査規程を整備した。また、内部昇格が適当でない科目は、外部者の採用面接を実施し、予約採用した。</p>	履行済
認可時 (令和元年)	<p>・「客観的臨床試験（OSCE）」の実施に当たっては、その前提となる履修条件、実施内容、評価基準、不合格となった場合の取扱いについて、あらかじめシラバス等で明確にした上で履修指導を適切に実施すること。</p>	遵守事項	<p>・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱのシラバスに「客観的臨床能力試験（OSCE）」の履修条件、実施内容、評価方法、不合格となった場合の取扱いについて明記していなかったため、シラバスに追加した。履修指導にあたっては、これらについて適切に説明した。</p>	履行済

<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・臨地実務実習における「症例報告会」を実施するに当たっては、個人情報などの機密保持に関する指導を適切に行うこと。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・臨地実務実習における各学科の「症例報告会」を実施するに当たり、個人情報などの機密保持に関する指導を再検討した。臨地実務実習の事前・事後における指導、及び実習前オリエンテーションを実施にあたっては、個人情報等機密保持に関する内容を追加した。</p>	<p>履行中</p> <p>・隣地実務実習における「症例報告会」において発表される症例報告は、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報が記載されることが多いため、特にプライバシー保護に配慮し、患者が特定されないように十分留意することが必要である。</p> <p>・臨地実務実習における各学科「症例報告会」を実施する際には、氏名・年齢・日付・居住地・職業・家族歴・遺伝情報・実習記録に十分配慮するよう、本年度の実習委員会で症例報告に関する患者のプライバシーを保護する指針を策定する。</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・「音楽療法によるQOLの維持向上Ⅰ・Ⅱ」のシラバスの授業概要と各授業計画の対応関係について、学生が理解し易いようにより明確にすることが望ましい。(作業療法学科)</p>	<p>助言事項</p>	<p>シラバスの授業概要と各授業計画の記載内容を再検討し、それぞれの対応関係について、学生が理解し易いようより明確にシラバスに記載した。</p>	<p>履行済</p>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・大学を設置する学校法人としてふさわしい監事監査の在り方について検討すること。</p>	<p>助言事項</p>	<p>監査計画に沿って、業務監査・財産の状況監査・理事の業務執行の状況を監査する。</p> <p>監事、公認会計士、内部監査室は、三様監査連絡会議を開催し、監査計画・監査実施状況の情報共有・意見交換を行い連携に努める。</p>	<p>履行済</p>

<p>認可時 (令和元年)</p>	<p>・学生生徒等納付金に対する教育活動支出の割合が同系統の大学等を設置する学校法人に比べて低いことから、同納付金の学生への還元に取り組むこと。</p>	<p>助言事項</p>	<p>令和2年度における入学定員未達は、令和3年度から令和5年度の完成年度まで影響を及ぼすが、教育活動支出については、設置計画の教育活動支出を維持し、学生生徒等納付金に対する教育活動支出割合を高めるよう努める。 令和6年度以降は、大学の経営状況を見ながら教育活動支出の割合を同系統の大学に近づけるよう努める。</p>	<p>履行中</p>	<p>令和5年度までは、設置計画の教育活動支出を維持し、学生生徒等納付金に対する教育活動支出の割合を高めるよう努める。 令和6年度からは、大学の経営状況を見ながら、教育活動支出の割合を同系統の大学に近づけるよう努め、学生生徒納付金の学生への還元に取り組む。</p>
<p>調査時 (令和2年) (令和3年)</p>	<p>・教育内容の充実等を通じ、入学未充足の改善に努めること。(作業療法学科)</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>対面・オンラインを併用した各種学生イベント開催の充実、HPやSNS等を活用した専門職大学並びに本学のPRの徹底、及び訪問・WEB等による高校との関係強化に努め、定員充足を目指す。</p>	<p>履行中</p>	<p>作業療法士の認知度が低いことを受け、専任教員が作業療法士になったきっかけや、やりがい等をオンライン配信し、認知度向上を図る。一方、コロナ禍が落ち着いたことでオンライン講義からリアル講義に変更し、作業療法士の魅力を訴求する。HPやSNS等を活用した専門職大学と本学のPRの徹底、訪問・WEB等による高校との関係強化を継続し、定員充足を目指す。</p>

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集に注力するため、入試広報委員会を分割し、学生募集委員会と入試委員会に分割した。（資料1・2） ・BCP（事業継続計画）を策定するため、危機管理委員会を設置した。（資料3） ・研究機関として厳格に運用するため、研究倫理審査委員会と利益相反マネジメント委員会を設置した。（資料4・5） ・政策企画委員会の下部組織として、地域・産学連携企画部会を設置した。 ・学生委員会の下部組織として、学生活動部会を設置した。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD・SD委員会は、令和3年5月17日・6月21日・7月19日・9月27日、令和4年1月17日・3月14日に開催し、委員全員が出席した。なお、c委員会の審議事項、②実施状況は以下のとおり。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月17日 授業アンケート、令和2年度結果、令和3年度実施方法 ・6月21日 FD・SD委員会設置趣旨、研究倫理研修会の開催方法 ・7月19日 ハラスメント研修会・研究倫理研修会の開催、展開科目意見集会の概要、FDハンドブックの概要案 ・9月27日 個人情報保護法研修会・展開科目の位置付け理解のための研修会の開催 ・1月17日 前期授業アンケート結果、隣地実務実習施設先へのアンケート実施、FDハンドブック案 ・3月14日 令和4年度活動方針・計画 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理研修会、第1回「研究者としての倫理について」、第2回「責任ある研究活動を目指して」 ・ハラスメント研修会、「ハラスメントに関する基本的な理解のために」 ・個人情報保護法研修会、「個人情報保護法に関する基礎的知識」 ・展開科目研修会、第1回「教育理念と展開科目の位置付けの理解」、第2回「要請する人材像の理解」 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、対面による研修会を開催した。 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象として実施した。欠席者のフォローアップとして、動画を視聴するよう促した。 <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を踏まえ、ハラスメント、個人情報保護法を尊重した授業を実施している。 ・教員が専門職大学の特色である展開科目の位置付けを正しく理解することで、学生の教育に活かしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・全ての授業科目に対して、授業に対する理解度、授業内容に対する興味・要望等について、学生に対する質問13項目、回答5段階の授業評価アンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・アンケートの結果は教員の自己点検及び授業改善に役立てられるよう、担当教員にフィードバックした。また、アンケート結果は大学ホームページに掲載することを予定している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

・教育課程連携協議会の委員は、教職員5名、職能団体関係者2名、地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者として江東区職員1名、臨地実務実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と連携する事業者として9名、及び総合的なアドバイスを行うその他3名で構成している。

・委員の構成に変更はないが、異動に伴う委員の変更は以下のとおりである。

04 工藤征四郎から林正志に変更

05 林正志から小杉泰輔に変更

14 中迫誠から白岩誠に変更

17 小川博幸から柳澤均に変更

20 石川誠から森本榮に変更

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

・教育課程連携協議会は年2回、委員長が招集する。令和3年度は新型コロナウイルス感染等の状況を鑑み、構成員の賛同を得て年1回とし、令和4年2月21日にZOOMでのオンライン開催とした。

c 委員会の審議事項等

・授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

・授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

d その他

・該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

・授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

・授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

・学生の学修理解度をより高めるため、設置科目の配当学期を見直し、3科目の変更を行った。

・コロナ禍において、学生の学修機会の確保を行った。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

・「神経内科学」(2単位)の設置学期を2年次後期から2年次前期に変更した。

・「リハビリテーション概論」(1単位)の設置学期を1年次後期から1年次前期に変更した。

・「身体機能作業療法評価学」(1単位)の設置学期を2年次前期から2年次後期に変更した。

・1年次「職業専門科目」の設置単位数を前期7単位から8単位に変更し、後期12単位から11単位に変更した。

・2年次「職業専門科目」の設置単位数を前期13単位から14単位に変更し、後期9単位から8単位に変更した。

・新型コロナウイルス感染防止と対面授業と遠隔授業の効果的実施により、学修機会を確保した。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <ul style="list-style-type: none">・本学は、学則第2条（自己点検・評価等）に基づき、本学の教育研究活動等の状況において、自ら点検及び評価を行うために「自己点検・評価委員会」を設置している。・令和3年度は自己点検・評価委員会を6回開催した。大学基準協会では、専門職大学に係る内容を盛り込んだ点検評価項目を公表しており、本学の自己点検・評価項目として試行した。令和3年11月1日に完成したが、今回は試行のため、HPへの公開を見送るが、完成年度以降は公開する予定である。
<p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・令和6年7月に公表予定 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・大学ホームページ上に公開予定
<p>③ 認証評価を受ける計画</p> <p>（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）</p> <ul style="list-style-type: none">・機関別認証評価を開学後7年以内に受けるべく、評価機関の選定を含め学内で検討中である。・分野別認証評価は、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価を開学後5年以内に受ける計画である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）</p> <p>a 公表予定の有無 [<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無]</p> <p>≪ aで「有」の場合 ≫</p> <p>b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ <input checked="" type="radio"/> 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]</p> <p>c 公表方法 [<input checked="" type="radio"/> ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]</p> <p>≪ aで公表「無」の場合 ≫</p> <p>d 公表しない理由 [()]</p>
--

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。